

硝酸貼付剤を発作時に頓用

Explanation & Confirmation
リスク回避のためのポイント

硝酸剤は剤形により使用目的が異なることを十分説明する。

Case

ニトロダームTTSを発作時頓用薬と誤解

80歳の女性。高血圧症、狭心症。

処方せん	①アダラートCR錠 10mg 2錠
	ディオバン錠 80mg 1錠
	1日1回 朝食後 14日分
②ニトロペン舌下錠 0.3mg 1錠	胸痛時 10回分
③ニトロダームTTS 1枚	1日1回 貼付 14日分

Incident
事件

患者はニトロダームTTS（一般名：ニトログリセリン経皮吸収型製剤）を1日1枚貼り替えるのではなく、狭心症の発作が起きたときにだけ貼付していた。

History
経緯

ある時、薬局での薬剤交付時に、患者が「ニトロダームTTSは自宅に何十枚も残っているから、今回は要らない」と話した。薬剤師は1日1枚使用していてそんなに余るはずがないと考え、ニトロダームTTSの使用状況を尋ねたところ、患者は狭心症の発作が起きたときにだけ貼付していたことが判明した。薬剤師は患者に対し、ニトロダームTTSの特性と正しい使用法を改めて説明した。

Worst scenario
最悪の事態

狭心症のコントロールができず入院。

Assessment
原因分析

患者は、ニトロダームTTSが処方される以前からニトロペン舌下錠（一般名：ニログリセリン）を使用していた。患者は、ニトロダームTTSもニトロペンと同様、狭心症発作時に使用する薬であると思い込んでいた。つまり、両方とも「ニトロ」と同じ接頭語が付くことから使い方も同じだと勘違いしていたと考えられる。薬剤師はニトロダームTTSの初回投与時に薬効や用法などを説明したつもりだったが、十分な理解が得られなかった可能性が高い。誤用が発覚したのはニトロダームTTSが初めて処方されてから4回目の投薬時だった。初回だけでなく、2回目以降も使用状況を確認し、適切な使用法を指導すべきだった。

Plan
回避法

ニトロペンとニトロダームTTSが同時に処方された患者に対しては、名称が似ていてもそれぞれ使用目的が異なることを十分説明する。すなわち、前者は狭心症発作時に症状を和らげる薬であり、後者は有効成分が皮膚から徐々に吸収され持続的に作用するため、毎日貼付することで狭心症発作を予防する薬であることを説明する。特に高齢患者においては入念に指導する。またDo処方であっても、毎回（定期的に）、使用方法が適正かどうかを服薬指導の中で確認する必要がある。

Communication
服薬指導例

前日もお話ししましたが、今回も確認のためにお話ししておきたいと思います。患者さんには狭心症のお薬としてニトロペンという飲み薬とニトロダームTTSという貼り薬が処方されています。ニトロペンは狭心症の発作が起きたときにそれを和らげる薬です。ニトロダームTTSは有効成分が皮膚から徐々に吸収されて持続的に作用して、毎日貼ることで狭心症発作を予防する薬です。名前が似ていますが、それぞれ使用法が異なりますので注意してください。

Similar instance
類例

そのほか硝酸貼付剤を誤って使用した事例を以下に示す。

事例● 狭心症の67歳女性。胸痛・息苦しさを感じたため受診、フランドルテープを処方された。再薬局時に同剤の使用状況を確認したところ、患者が3日間貼り続けていることが判明した。薬剤師は前回、24時間ごとに決めた時間に貼り替えるよう指導したつもりだったが、患者は理解しておらず、フランドルテープは剥がれたときに貼付し直すものではないと思込んでいた。